



みんなが笑顔で、やりたくなるサッカーを



吉澤 昌好 / よしコーチ

認定特定非営利活動法人トラッソは、東京・神奈川で知的障害・発達障害のある子どもや成人を対象としたサッカー学校等を行い、江戸川区内では白鷺スクール・鹿本スクールの2か所で実施している。テーマは、“笑顔”と“やりたくなるサッカー”。トラッソでは、サッカーを「楽しみながら成長していくための余暇スポーツ」として考えている。

コーチの吉澤氏は語る。「障害があるため、運動に参加できない子ども、スポーツが嫌いになる方がおり、自宅・学校・職場以外に、楽しみを持ってない人が多いです。だからこそ、トラッソは障がい児・者にとっての“もうひとつの場所”になりたいんです。」

子どもから大人まで、共に“笑顔”で楽しむサッカー、失敗することも楽しんでチャレンジを積み重ねるサッカー。参加者たちを見ていると、トラッソの取り組みが、子どもたちに自信や達成感、そして参加者同士の繋がりを作っていることが、よくわかる。

自主性の尊重、自立を目指して

スクールでは、遊びながらトレーニングを行っている。コーディネーション（思考と体の連携等）の要素を含め、子どもたちが楽しみながら体力や運動能力の維持・向上を図るとともに、サッカーの基本技術を指導しているのだ。

子どもたちの“やりたい！”という気持ちを尊重し、コーチは子どもたちと一緒に楽しみながら「やりたくなるサッカー」を目指している。そのため、子どもたちの知的発達段階や体力を考慮しながら、ゆっくりとしたペースで練習メニューを工夫している。

大切なことは、子どもたちの自主性を尊重し、自立を促すこと・・・トラッソでは練習着を揃えることで仲間意識の高揚を図り、用具の準備や片付け、あいさつを通してコミュニケーション能力の維持・向上を促しながら、子どもたちの社会進出を目指している。余暇スポーツの現場から日常生活をサポートする・・・参加者全員が笑いあい、楽しみあいながらプレーできるサッカー学校が、ここにある。



スクールの様子

